

教育委員会だより

令和5年9月27日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

「前向け、前進め！」～外国籍等生徒進路説明会～

令和5年8月24日（木）に、外国籍等生徒進路説明会を実施しました。ひと言で“外国籍”といっても多言語に及びますので、日本語・タガログ語・ポルトガル語・中国語の4カ国語で行いました。はじめに、教育委員会から日本の学校のしくみや高等学校入学者選抜について説明しました。次に、小・中学生の頃にフィリピン・ブラジル・中国・ネパールから日本の学校に転入し、高校へ進学した7名の先輩から、それぞれの高校生活についてお話を聞きました。また、中学校時代に頑張ったことや失敗談なども聞くことができました。最後に、自身も中学生の時にフィリピンから来日し、現在、県立高校の定時制課程で外国人生徒適応指導員をお勤めのカリルさんから、次のような言葉をいただきました。

「みなさんは、これからたくさんの失敗をし、恥をかくこともある。自分を嫌いになり落ち込むこと、自分や他人を傷つけてしまうこと、大切なものを失ったりあきらめたりすることも当然あります。そんな時は、ちゃんと悲しみ、悔しがり、時には泣いても怒鳴ってもいい。それでも、最後は「前向け、前進め！」車のバックミラーやサイドミラーは小さい。それは、後ろを振り返るためのものだから。でも、フロントガラスはもっと大きい。行き先は、前にあるのだから…。」

小・中学校の児童生徒とその保護者、学校の先生方43名の参加があり、興味津々にお話を聞くことができました。説明会を通して、日本での生活や進路に対して前向きな気持ちや希望をもつことができたようです。解散後も、なかなか別れがたく、様々な言語で語り合う姿がとても印象的でした。

日本で暮らす外国籍等児童生徒にとって“言葉の壁”は、私たちが想像する以上に大きなものでしょう。それでも、彼らは様々な支援を受けながら懸命に努力し、日本に馴染み、力強く生きています。今回参加した児童生徒が抱える困難さが、いつかバックミラーの中の小さな思い出となり、フロントガラスの向こうに大きな夢や希望を見据えながら前進していく姿を願わずにはいられません。



みんなで創る学校 ～笠原幼保小中一貫教育研究会～

令和8年4月開校・開園予定の（仮称）笠原小中学校及び笠原こども園。市内初の義務教育学校と認定こども園のスタートに向けての取組が加速してきました。9月25日（月）には、令和2年から17回を重ねる笠原幼保小中一貫教育研究会を開催しました。今回の主な議題は、①笠原小中学校の校舎配置、②校歌、③各ワーキンググループの進捗状況についてでした。校舎配置については、周辺道路の整備や児童生徒の登下校時の導線、安全対策等について意見が交わされました。また、小学生が仮設校舎（笠原中学校敷地内）で過ごす間の遊具の確保にまで意見が及びました。校歌については、作曲をお願いする 加納 徳子 様（陶都楽友協会・笠原町在住）をお招きし、9月中旬に実施したアンケートの結果をもとに、校歌を作っていく過程について話し合いました。WGからの報告としては、学年の区切り・中1ギャップへの対応・教育目標や教育方針等（校長WG）、学校行事やPTAの組織及び活動、コミュニティースクールの在り方等（教頭WG）、日課や時間割等（教務主任WG）、制服や通学路等（生徒指導主事WG）に対して、忌憚のないご意見をいただくことができました。どのご意見からも、委員それぞれのお立場から新たにスタートする学校への期待の強さを感じました。

具体的に考えれば考えるほど、次々と課題も浮き彫りになってきます。それらを共有し、一つ一つ解決策を探りながら開校・開園への準備が進んでいきます。



副教育長のひとりごと「変化した通学風景」

まだまだ日中の暑さは続いていますが、それでも朝夕は秋の気配を強く感じるようになってきました。今年の長くて暑い夏を振り返ってみると、子供たちの通学風景が「ずいぶん変わったなあ。」と改めて感じます。帽子や日傘、ネッククーラーやハンディファンと、熱中症対策には抜かりありません。モノによっては、従来なら学校で“不要物”とされてきたようなモノでも使用が認められています。コロナ禍でのマスク着用や今般の熱中症対策など、子供の健康や安全より優先すべきものはないという考え方が定着したということでしょう。

